

研究の実際（単元）



視点①教科特有の「見方・考え方」を明らかにし、単元や学年のつながりを意識した言語活動・数学的な活動

2 単元構想

単元の目標	【知・技】概数の用いられる目的や四則計算の見積もりの仕方を理解し、それらを活用して目的に応じて用いることができる。						
	【思・判・表】日常の事象における場面において、数の処理の仕方に着目し、目的に応じて数の処理する良さについて考え、説明している。						
系統性	【態】 日常の事象において、目的に応じて数処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。						
	領域	数と計算					
	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年 中1
	項目				大きい数のしくみ がい数の表し方と使い方 小数のかけ算とわり算	小数のわり算	
【これまでの学習】 第3学年までの加法や乗法の学習で、計算の結果を見積もったり、第4学年のわり算の筆算の学習で、除数を何十とみて仮商をたてたり、長さやかさ、重さなどの測定値を読み取ったりする際に、およその見当を付けることを経験している。					【今後に向けて】 除法の商の処理や、グラフをかく際に目盛りの単位に数を合わせる場合に用いる他、見当を付けるなど数を用いた判断や考察に広く生かされるものである。		

単元や学年のつながりや「見方・考え方」を指導案上に位置付けた。

単元導入時の例

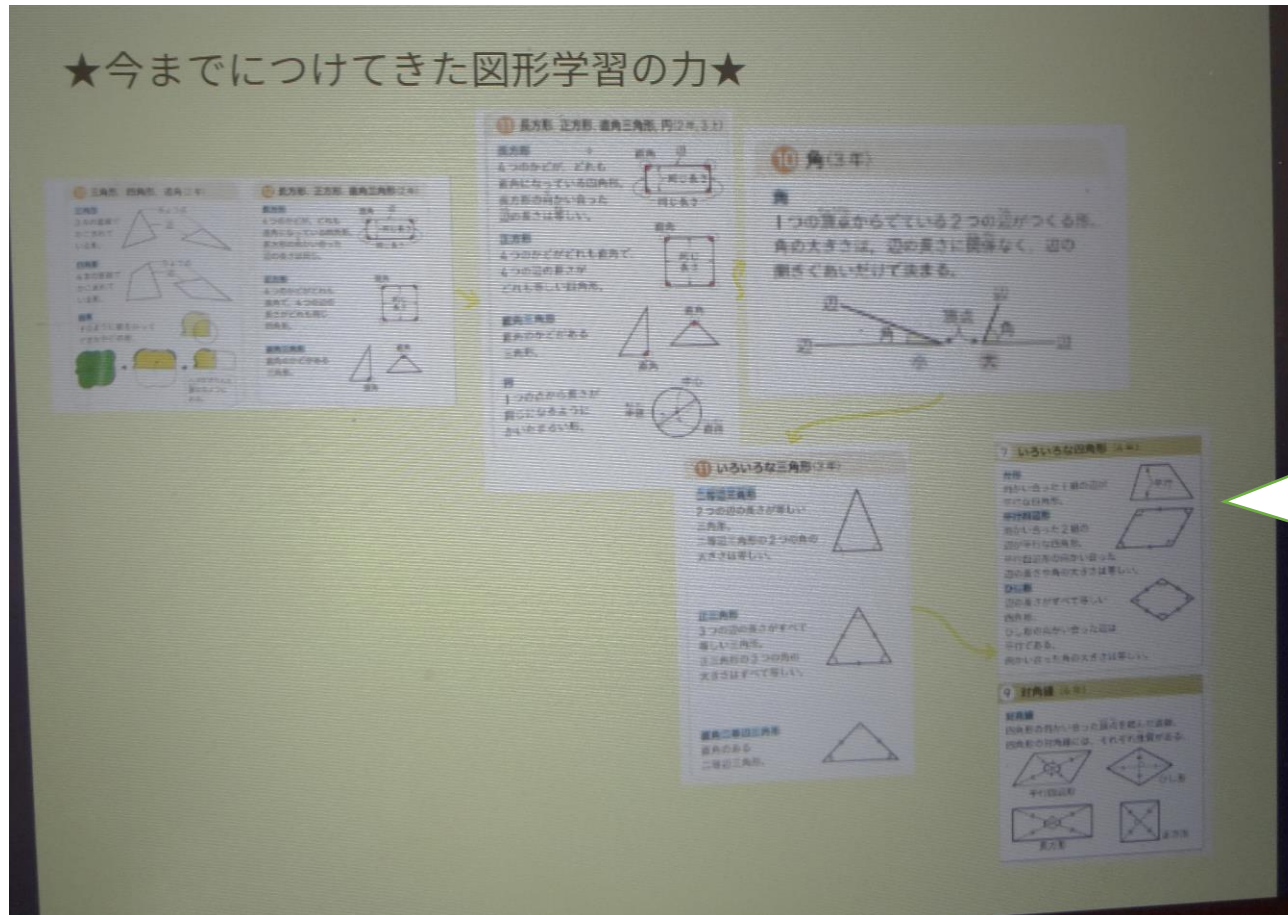
【2年 国語】

前単元、前学年で身に付けた力を意識し、本単元でどの力が活用できるか確認した。このつながりを教材研究で指導者側が把握し、子どもたちと共有。

研究の実際（単元）



視点②単元の導入や振り返りにおいて、既得の知識や思考方法の活用を自覚する場面を設ける



単元導入時の例
【5年 算数】

前単元、前学年で身に付けた力を意識し、本単元でどの力が活用できるか確かめた。このつながりをロイロノートで子どもたちと共有。

研究の実際（単元）



視点②単元の導入や振り返りにおいて、既得の知識や思考方法の活用を自覚する場面を設ける

①できた	時間の	しごと	毎日す	が分か	書き方のき	文を書くことができた	知っていることやみの回りの出来ごとをもつことができた	ツールやわざをつかって考えることができた

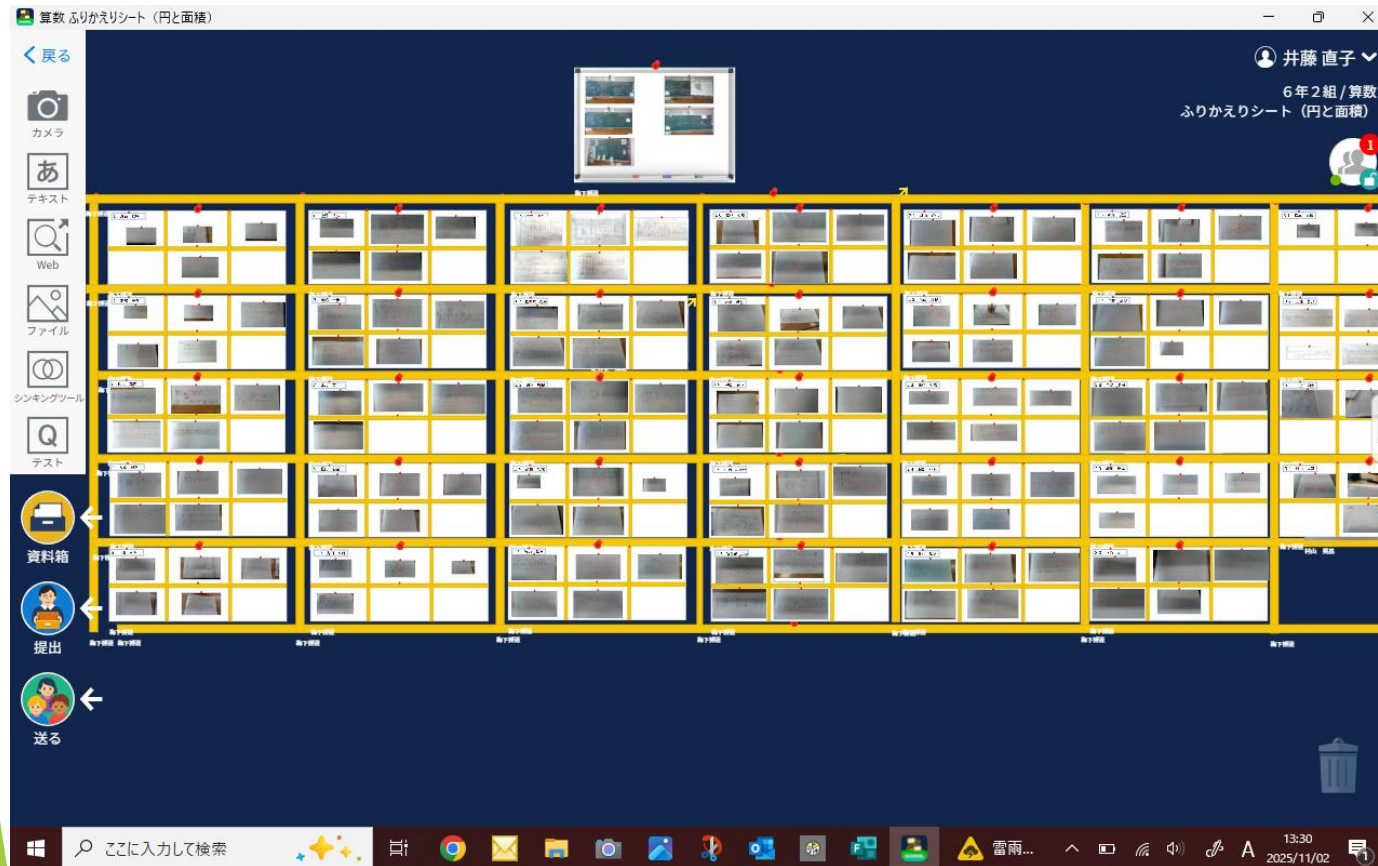
②つぎにどの力をどこで生かせそうですか。

読書をするときにならったことを
いかしたり知ってやることなどをつなげ
たりして読書にならったたくさん
のことをいかして読みたいと思いました。

振り返りでも、自分が活用した力や、単元の中で身に付けた力について視点を与えて自覚できるようにした例。
このような振り返りを積み重ねることで、横断的、汎用的な力として意識化する。

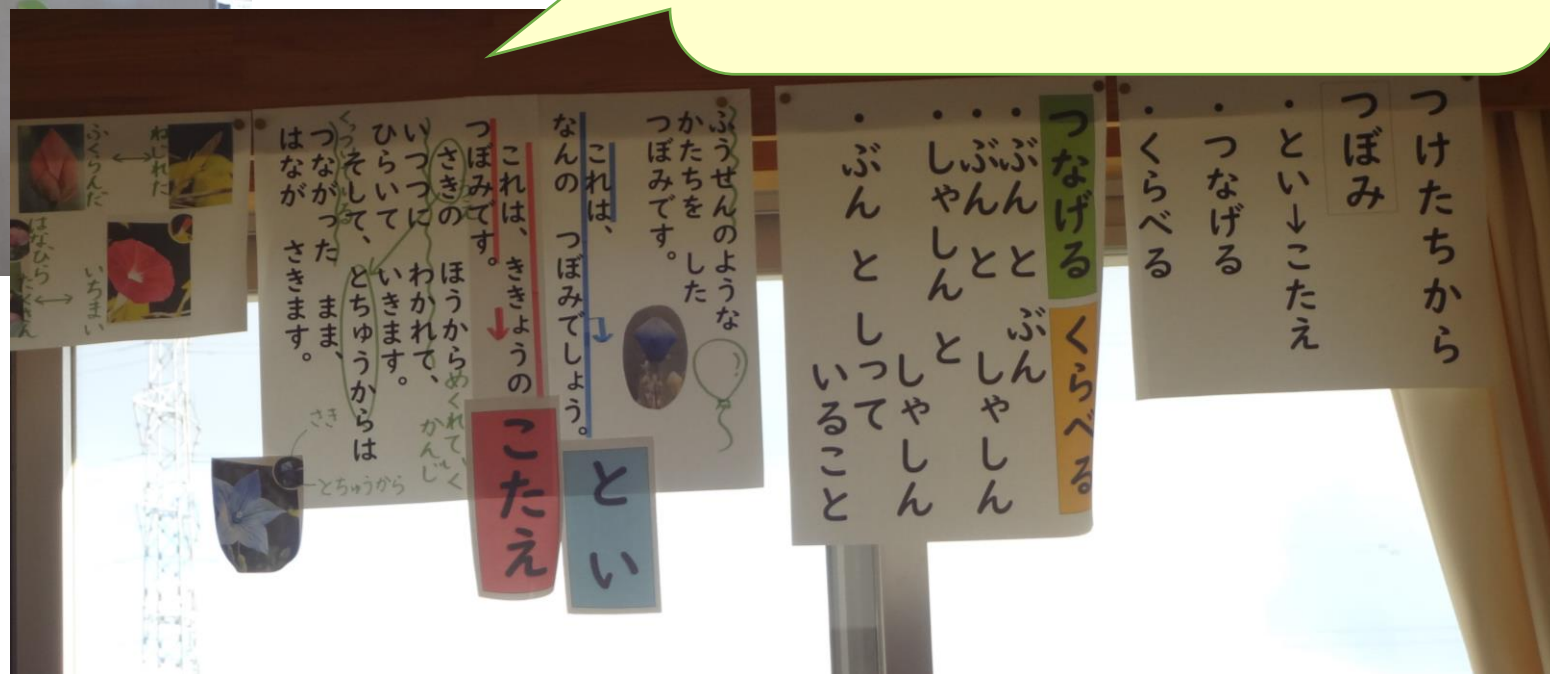
研究の実際（単元）

視点②単元の導入や振り返りにおいて、既得の知識や思考方法の活用を自覚する場面を設ける



単位時間の振り返りをロイロノートに蓄積することで、既得の知識や思考方法と関連させて自分の学びの深まりを自覚できるように考えた。

研究揭示の文章に関心をもつことで、学習する単元を読み取ることの目的につなげた。既得の知識や技能を教室に掲示し、自己の学びを見通す手立てとしている。



研究の実際（単位時間）

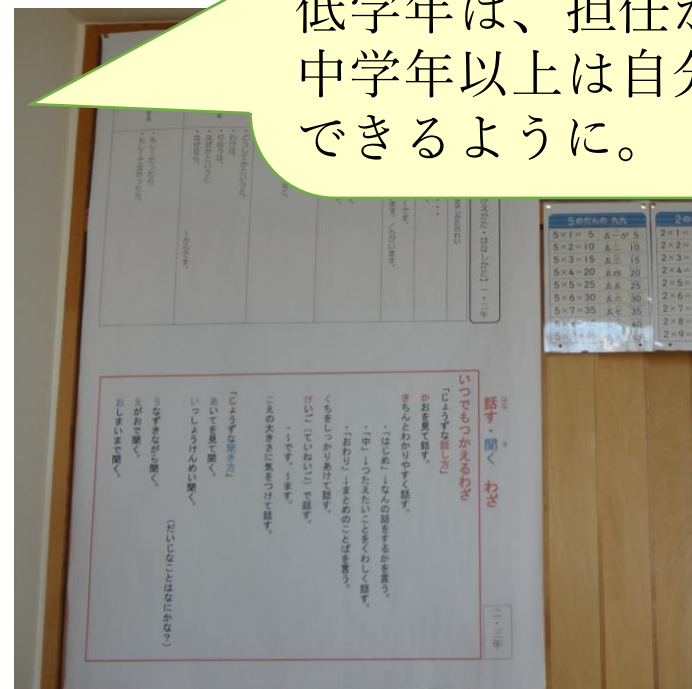


視点②・単位時間の導入や振り返りにおいて、既得の知識や思考方法の活用を自覚できるようにする

かんがえかた	じゅんじょづける	くらべる	ぶんるいする	かんけいづける	みかたをひやす	りゆうづける	みとおす	わかりやすくなる
このように	・ならびかえる ・じゅんじょをかんがえる	・おなじところ、にているところをみつめてかんがえる ・ちがうところをみつめてかんがえる	・なかまにわかる ・なかまでもとめる ・ひとつのみかたでえらぶ	・つなげてかんがえる ・かんけいのあるものをみつめて、ひやす	・ちがうみかたでかんがえる ・はんだいからもかんがえてみる	・どうしてかわけをかんがえる	・よくみとめる ・このあとどうするかかんがえる	・ちいさいぶんちゅうもくを ・しってこることにできる
ツールれい	・ざひようじく ・ダイヤモンドラン キング	・ざひようじく ・ペンす ・データチャート ・ダイヤモンドラン キング	・XYWチャート ・ペンす	・ウエビング ・くまでチャート	・XYWチャート ・フィッシュボーン ・PMI ・くまでチャート	・くらげチャート ・データチャート	・フィッシュボーン ・キャンディチャー ト	・ピラミッドチャー ト

まなびを ふかめる かんがえかた **低**

思考方法と思考例、思考に合うツール例を表にして各教室に掲示し、学びの中で活用できるようにした。低学年は、担任が関係付け、中学年以上は自分でも意識できるように。

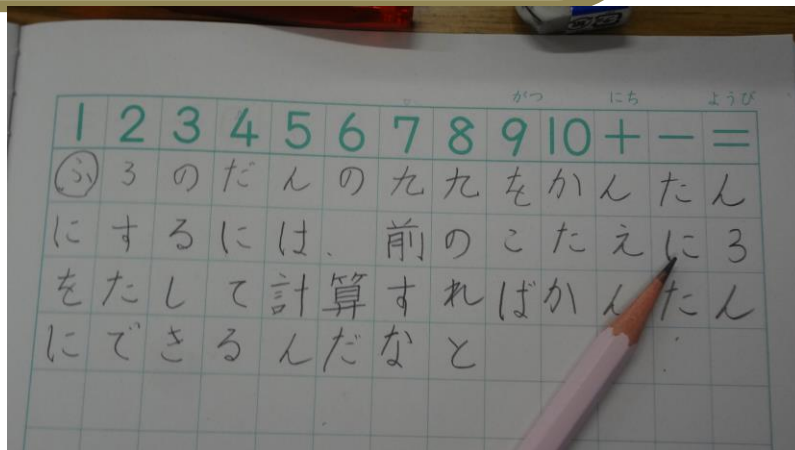
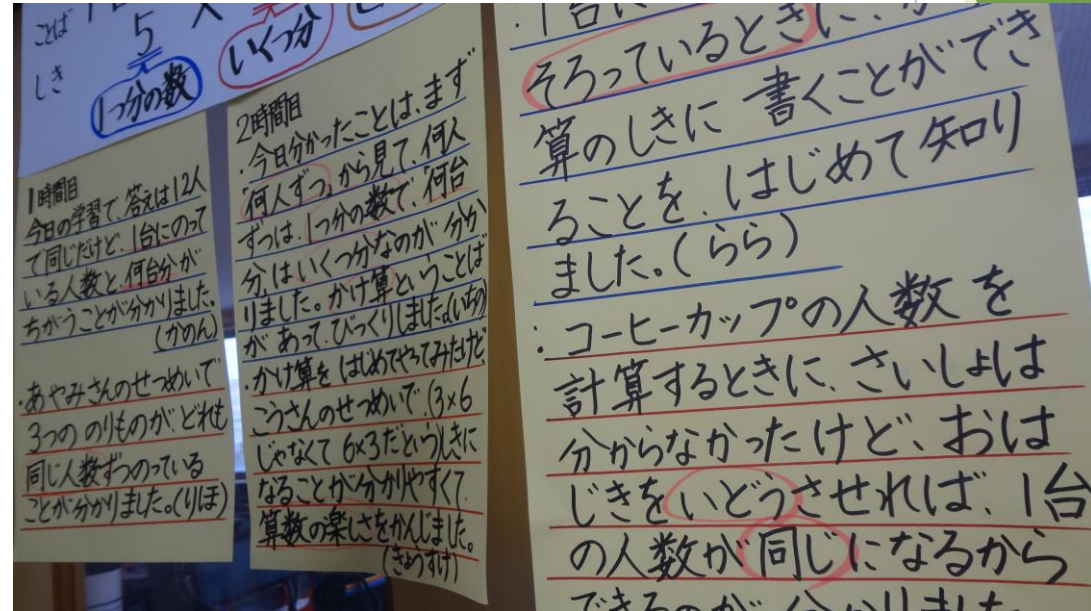


研究の実際（単位時間）



視点②学びを振り返り、有用感を実感する活動を
設定する

- ・ 学び方のよさ
- ・ 今日学んだこと
- ・ 生かしたいこと



視点に合わせて、学びの中で活用した思考
方法のよさや友達との考えの交流などのよさ、
学んだことや生かしたいことを意識的に振り返ったことを自覚し、次の学びにつなげる。

研究の実際（単位時間）

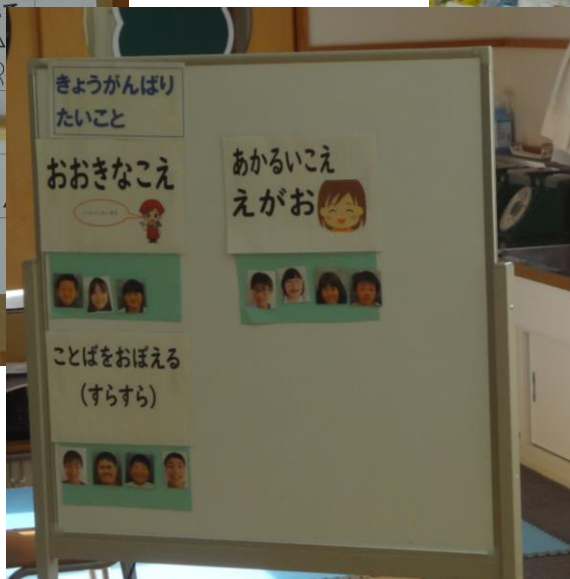
視点②学びと有用感を自覚する振り返りを設定する



（店員のプロになろう）ふりかえり表 月 日
さんのよかったところ（かいた人）

★おもてなしのことば	よくできた ふりかえり
① いらっしゃいませ。⇒おじぎする。	しせい・
② おせきへごんないします。	おじぎ
③ こちらがメニュー表です。	○ △
④ ご注文は何にしますか？	目を見て
⑤ ○○と○○ですね。 ⇒でんぷんに○をつける。（2枚）	えがおで ○ △
⑥ じゅんびしますので、おまちください。 ⇒たべものとのみものをトレーにのせてはこぶ	目を見て
⑦ おまたせしました。○○と○○です。	○ △
⑧ どうぞゆっくりおめしあがりください。	目を見て
⑨ お会計はあちらです。	○ △
⑩ ありがとうございます。⇒おじぎする。	目を見て

★ きょうのめあて
おもてなしのことばを
ゆっくり はっきりと はなそう



各児童が本時頑張りたいことに視点を当てて見取り合い、よさにふれた振り返りを行うことで、自分の学びを実感したことは、次の単元や日常生活で生きる。

研究の実際（単位時間）

視点③他と関わりながら協働的に思考する交流活動を設定する



自分で問題を解決する場面で、他と自由に考えを交流し、自分の考えに生かす活動を設定した。自分の考えをもってから交流。

研究の実際（単位時間）



視点③他と関わりながら協働的に思考する交流活動を設定する

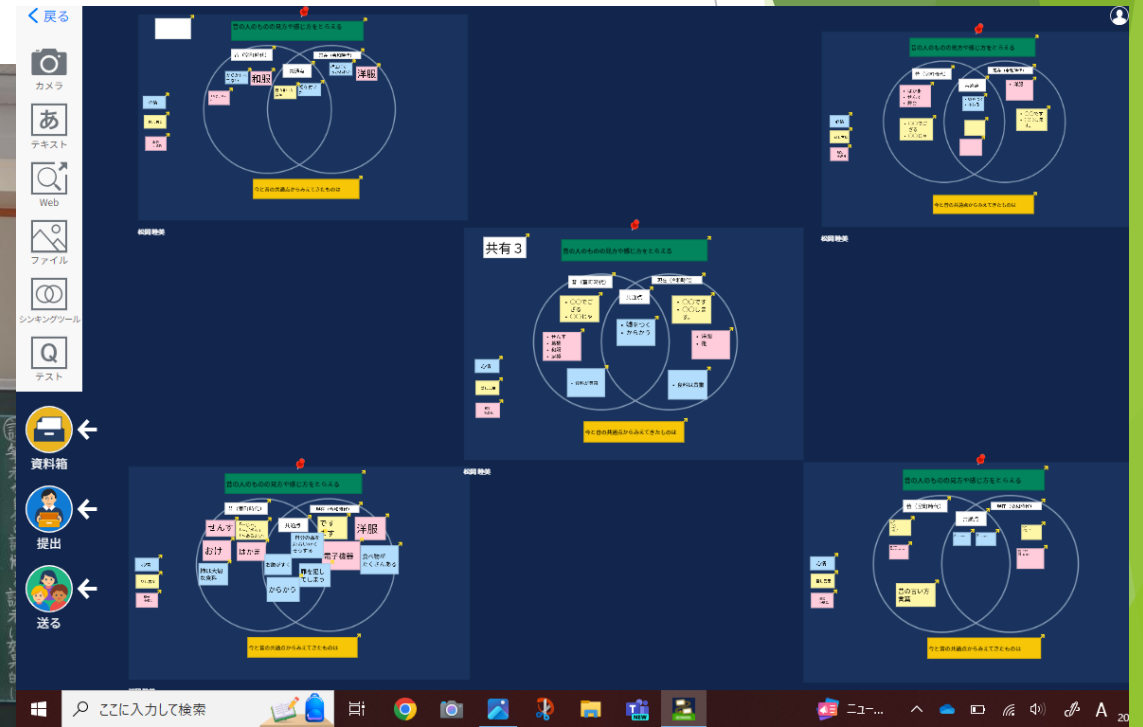
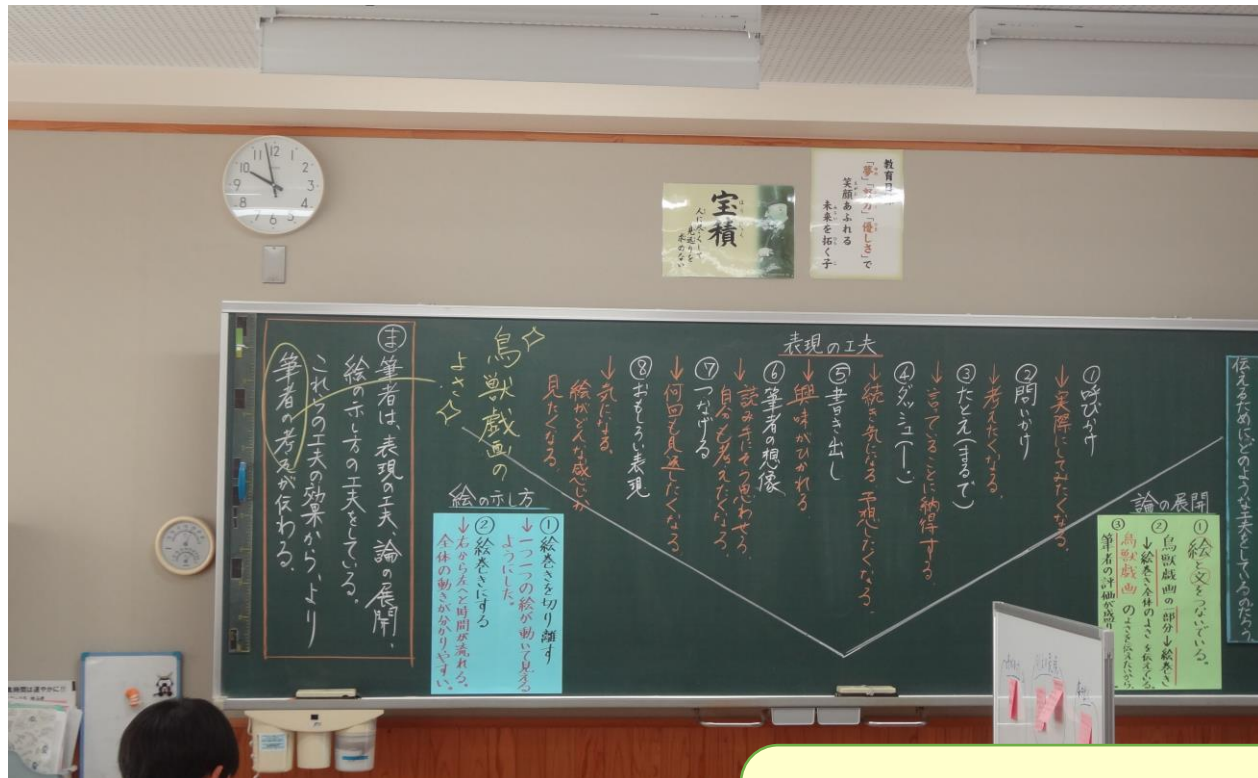


グループで交流したことを基に全体の考えに生かし、それらの活動の中で自分の考えを再認識したり、考えを広げたり深めたりする。

研究の実際（単位時間）



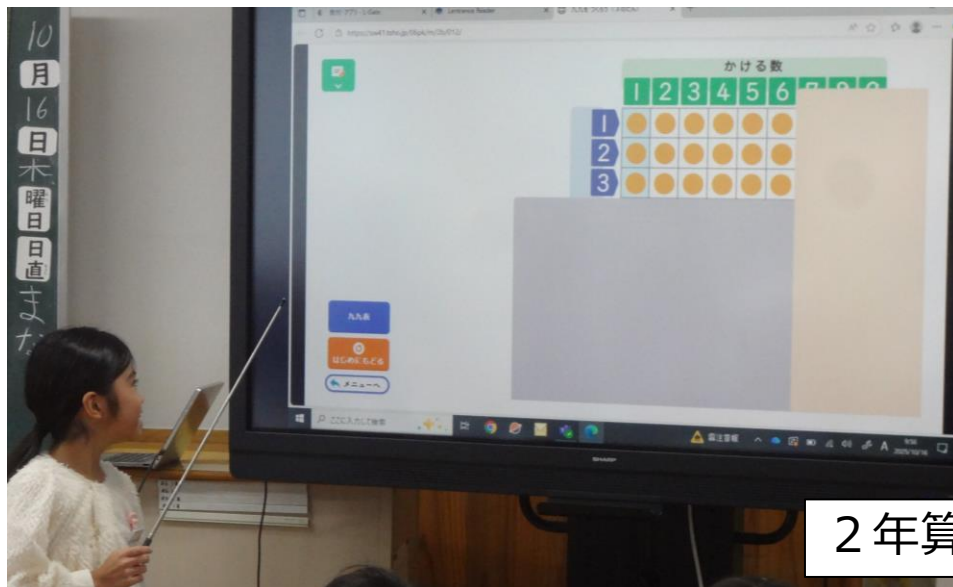
視点③思考方法に合わせた思考ツールやICTの活用・思考表現等、手立てを工夫する



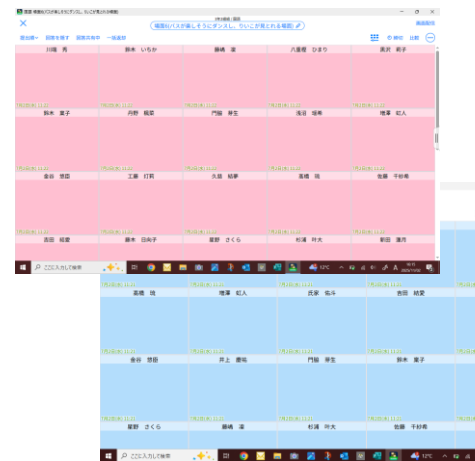
思考ツールを使用し、読み取ったことを分類したり関係付けたりしながら、学びを可視化する。

研究の実際（単位時間）

視点③思考方法に合わせた思考ツールやICTの活用・思考表現等、手立てを工夫する



2年算数



3年国語



ICTを活用し、自分の立場や考えを視覚化したり、考えを説明するときの手立てにしたりした例。

研究の実際（単位時間）

視点③思考方法に合わせた思考ツールやICTの活用・思考表現等、手立てを工夫する



だいちゃんを使って思考方法や思考表現を示し、児童が考えをもったり交流したりする場面での手立てにできる。

感想の言葉(3・4年) 名前

よいと思った言葉		よくない言葉	
アイデアがよい	自慢がわる	あきあきする	なさけない
新しい	親しむ	あきれる	なやむ
あんがいである	親しみがわる	頭をかえる	にく
意外である	自分できる	あつげにとられる	はら立たしい
空を空している	知らず知らずする	あせる	ひやあせをかく
いたわる	じんとくる	あててる	ひやりとする
意味がある	すかつとする	いいかげんである	不安になる
いやされる	すぐれている	いい気がしない	ふきげん
いよく的	すめる	いかり	ぶきみである
浮かれる	すてきである	いらいらする	へそを曲げる
打ちこむ	成長する・成長できる	うっとろしい	みっともない
うろりする	成長する・成長できる	うんがります	むっとする
運がいい	そくそくする	おそろおそろ	むねがたいむ
エネルギーにあふれて	そんけいする	おそれる	目をうたがう
救えられ	面しめる	おそれる	もの足りない
かたの力をぬく	たよりになる	おそろしい	めんどう
かたの背が下りる	たのものない	落ち着かない	もうしわけない
かんげきする	せいせい・ばい	思ひこむ	もの足りない
かんしゃ	ためになる	がっかりする	分かりにくい
感心する	かづけられる	かつとなる	
関心をもつ	注目する	ぎょつとする	
感動する	平素となる	気落ちする	
気がすむ	てれる	気が落ちる	
気が睡れる	ときめく	気が重	
気がなる	とくになる	気にかかる	
きたいする・きこ	きこである	背心する	
できる	だつとく	くだらない	
きょうみ深い			
きょうみを			
空想する			
る			
くらへ物は			
決心する			
元気が出る			
こうふする			
心が通まる			
心が動く			
心がおどる			
心が落ちる			
心がはずむ			
心にしみる			
心にのこる			
心が睡れる			
心にひびく			
心のききえとなる			
心をうばわれる			
こたわる			
好む			
さわやかである			
さん成する			
ほれほれする			
まい上がる			
得ちどおしい			
まねでできない			
見事である			
夢中になる			
すねる			
ぞつとする			
たたくてである			
ためらう			
つらい			
とんでもない			

教科書に掲載されている「学習に用いる言葉」を学年毎の一覧にしたもの。単元のつながり、語彙力の育成に活用。【国語】

[illegible]

教科書、指導要領に掲載されている「算数用語・記号」学年毎の一覧。用語を使って学ぶ環境を整える。【算数】

研究の実際（日常・指導者の学び共有）

●各部会で作成した系統表や語彙を増やす取組の共有



自立活動共有シート 向中野小学校

対象児童の学年、氏名
特別支援学級1年生～6年生：男子25名 女子7名 計32名

対象児童の現状
障がい種（情緒17名 知的14名 聴覚1名 計32名）
情緒障がい、知的障がいをもつ本校の児童は、身体の動き（姿勢の保持、運動・動作の基本的技能等）において個々の特性にもよるがぎこちない動きである。また、顔、調子が悪い児童も多々見られる。

手立て
平成7年度から、月・水・金曜日の朝学習の時間（8時10分～25分の15分間）を使って、体を目覚めさせ動かす活動「スマイルチャレンジタイム」を行っている。

① コグトレ棒を使った運動
体を柔らかくする運動（ウオーミングアップ）
両早くキャッチや片手に持ってバタズ運動

② ケンパー運動
③ フラフープを使った運動
④ バランス棒を使った運動
棒の上を落ちないように歩く運動

⑤ バランス棒を使った運動2
⑥ ボールを使った運動
足指を揃えて運動（リズムよく）
ドリブル運動 一歩もいっまりシュート

指導者の思い（成果と課題）
○様々な運動を4月後半から継続してきたことで、児童は体を動かすことを楽しみにするようになってきた。機敏に動ける児童が増えてきた。
○できなかった動きができるようになった喜びを見えるようになってきた。
○道具を準備（自分たちで考えたケンパー等）や後片付けもみんなできてくるようになってきた。
●教師は、どのような運動がさらに児童のために良いのかを見極める必要がある。
○来年度も継続しながら、できれば自立活動の時間として教育課程（時間割）の中に位置づけていければよいと思っている。

本校で実践して効果の認められる自立活動の一覧。どの学級でも活用できる。【特別支援教育】